

第61回試験研究成果発表会（果樹）発表概要

【動画配信期間】 令和6年2月28日（水）～令和7年1月5日（日）

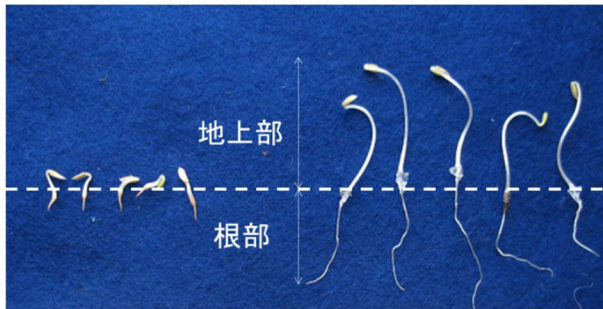
【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

ニホンナシにおけるいや地現象の台木間差及び活性炭によるいや地軽減技術

果樹研究室 金子 夏樹

いや地は、長年ナシ栽培を続けた圃場において、新たに定植した苗木の初期生育が不良になる現象です。本試験では、マメナシ台及びヤマナシ台の「あきづき」1年生苗木を用いて、台木の違いがいや地の発生程度に及ぼす影響を調査しました。また、連作土に活性炭を混和した場合の、樹体生育の抑制程度（いや地リスク）への影響をレタス種子を用いたモデル試験や「あきづき」1年生苗木のポット栽培試験により明らかにしたので紹介します。



レタスの種子を用いたいや地リスクの測定
左：連作土に播種、右：新土に播種



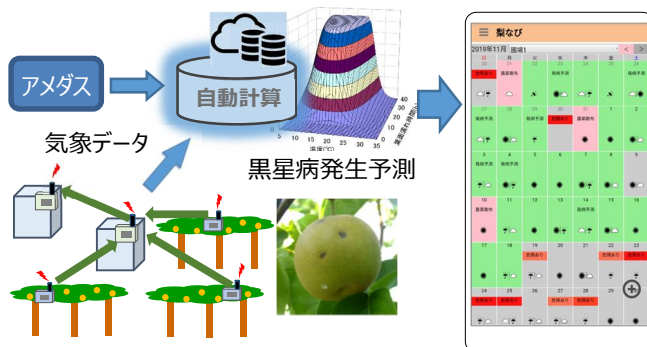
ポットに定植した「あきづき」苗木の生育
左：活性炭を混和した連作土に定植
中央：連作土に定植
右：新土に定植

発表2 成果発表

ナシ栽培におけるスマート農業技術の実証 ～梨なびアプリとロボット台車の活用～

最重点プロジェクト研究室 桑田 主税

令和3～4年度に農林水産省の事業を活用して市川市のナシ圃場で、スマート農業技術の実証に取り組みました。防除支援システム「梨なびアプリ」は、ナシ園の気象データを取得して黒星病の感染危険度をリアルタイムで予測することができ、薬剤散布の低減を確認しました。また、人に自動追従するロボット作業車を収穫物の運搬等に利用した場合の軽労化効果を評価したので紹介します。



「梨なびアプリ」のイメージ



自動追従ロボット台車での収穫

発表3 成果発表

ニホンナシ「幸水」における樹体ジョイント仕立ての定植方法

果樹研究室 井上 雄樹

神奈川県農業技術センターが開発したナシの樹体ジョイント仕立ては、複数樹を接ぎ木して連続した集合樹に仕立てる技術で、早期成園化に効果的であると考えられます。一方で、初期のコストや労力がかかることなどの課題もあります。本研究では、ジョイント仕立て法の栽植密度などが生育、収量及び果実品質に及ぼす影響を調査し、早期成園化に適したジョイント仕立ての定植方法を検討したので紹介します。



定植時のジョイント仕立て



ジョイント仕立ての若木

発表4 成果発表

ニホンナシにおける各種接ぎ木法の実施時期

果樹研究室 井上 雄樹

接ぎ木は品種の更新や側枝の確保に有効な技術ですが、一般的に行われている一芽腹接ぎは適期が短く、実施時期が受粉の繁忙期と重なります。本研究では、一芽腹接ぎ、ノミ接ぎ及び芽接ぎの実施時期別の活着率を調査し、各種接ぎ木法の実施適期を明らかにしました。また、穂木の貯蔵温度と活着率との関係を明らかにしたので紹介します。



ノミ接ぎにより発生した新梢



一芽腹接ぎの穂木の調整

発表5 成果発表

ビワ果実肥大進行と果樹カメムシ類による加害の関係

暖地園芸研究所 生産環境研究室 角田 ひかり

千葉県特産のビワは、春になると越冬地から圃場へ飛来する果樹カメムシ類の吸汁被害が問題となっています。暖冬が進むと、カメムシの活動開始時期が前進化し、カメムシによる果実被害の増加が懸念されます。そこで、果実の大きさとカメムシによる果実被害の関係、カメムシの飛来時期と果実被害の関係について調査し、カメムシによる加害が急増するビワ果実肥大時期について検討したので、その結果を紹介します。



果実袋の上からビワを加害する果樹カメムシ類



果実肥大調査の様子